

融雪材散布で雪解けを早め 牧草の生育期間を確保！

1 目的（期待する効果）

- ・牧草の生育期間を確保して生長を促進
- ・融雪促進による春のほ場作業の早期化
- ・カルシウムの投入
- ・積雪下で進行する雪腐病の抑制

2 資材・方法

- ・融雪タンカル
- ・ブロードキャスターなどを用いて、雪上に散布

3 散布のポイントと注意点

- ・トラクターで走行する場合、散布に時間がかかります（雪の状態によりますが、およそ4～5km/hで作業します）
- ・外周のみ融雪材を散布することで、作業を省力化できます
※防風柵や防風林際は、吹きだまりによって融雪が遅れやすい（写真1）
△全面散布よりも、カルシウムの散布効果は減少します
- ・散布時期は、機械で雪上走行が可能かつ、散布後冷え込まない時期を狙う必要があります
△散布時期が早すぎると、冷え込んだ際に土壌凍結が深くなったり、再度の積雪でまき直しとなる場合があります
散布時期が遅れると、機械の立ち往生や作業スピードの低下が起こります



写真1 雪が残りやすく、凍結が抜けにくい防風柵周辺（R5年4月10日）

4 管内での実証結果

1) R3年3月に実施した試験

- （更新後3年目草地）
- ・散布区に防散融雪タンカルを手散布（40kg/10a）
- ・乾物収量にして、散布区は対照区より約6%増収（図1）
- ・本試験の単純収支は、+67円/10a（表1）
- ・R3年は、融雪が平年（4月3日）よりも6日早い暖かい年でした

2) R5年3月に実施した試験

- （更新後1年目草地）
- ・融雪材を散布しないほ場（慣行区）と外周に融雪材を散布したほ場（試験区）を設置（管理は同じ）
- ・乾物収量にして、試験区は慣行区より約30%増収
- ・散布区では、早春の根浮きが軽減され、牧草の定着が改善されました

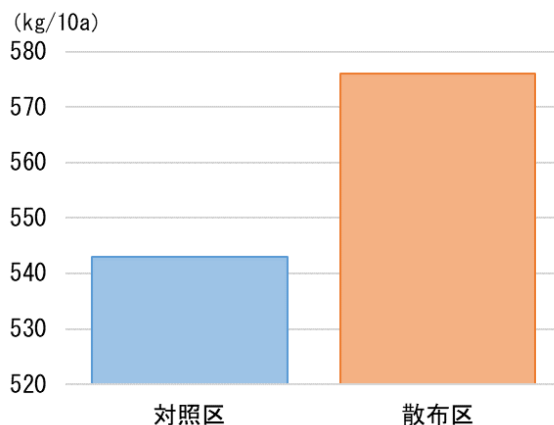


図1 R3年の試験の乾物収量

表1 R3年の試験の効果検証

	対照区	散布区	備考
乾物収量 (kg/10a)	543	576	+33kg/10a
A 収量差 (円)	—	1,650	乾物単価を50円で試算
B 経費 (円)	—	1,583	資材代や機械費など
単純収支 A-B (円/10a)	—	67	